1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」

項　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
総括判断	回復しつつある	**回復しつつある**	→

（注）8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、自動車関連を中心に回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている。

【各項目の判断】

項　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	**持ち直している**	→
生産活動	回復しつつある	**回復しつつある**	→
雇用情勢	緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている	**緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている**	→
設備投資	8年度は増加見込み	**8年度は増加見込み**	→
企業収益	8年度は減益見込み	**8年度は増益見込み**	↗
住宅建設	弱い動きとなっている	**弱い動きとなっている**	→
公共事業	前年を下回っている	**前年を下回っている**	→
輸出	前年を上回っている	**前年を上回っている**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費　「持ち直している」

スーパー販売は、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、一進一退の状況にある。ドラッグストア販売は、緩やかに回復している。百貨店販売は、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、回復のテンポが緩やかになっている。ホームセンター販売は、緩やかに持ち直しつつある。乗用車販売は、緩やかに持ち直しつつある。旅行は、持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 物価上昇を背景に消費者の節約志向は引き続き強く、購入数量の抑制や低価格商品へのシフトがみられる一方、お盆など特別な機会には品質の良い商品を選ぶなど、メリハリのある消費行動となっている。（スーパー）
- 日焼け止めなどの季節商品は前年ほど伸びていないものの、調剤やヘルスケア・ビューティケア商品が好調で、節約志向の中でも高価格帯化粧品や健康関連商品が販売を下支えしている。（ドラッグストア）
- 高額商材の販売は好調を維持しているが、館内改装やブランド移転の影響により、婦人雑貨を中心に売上や回遊客数が減少している。（百貨店）
- 省エネ基準改正前の夏場のエアコン需要は一巡し、前年に買い替え需要のあったパソコンやゲーム機の反動減もあって、足下の売上は前年並みとなっている。（家電大型専門店）
- 人気車種の受注制限緩和や供給改善を背景に、納車待ちの期間が徐々に短縮されており、ミニバンやSUVを中心に販売が増加している。（乗用車販売）

■ 生産活動　「回復しつつある」

自動車関連は、回復しつつある。航空機体部品は、緩やかに回復しつつある。金属工作機械は、持ち直しつつある。半導体集積回路は、緩やかに拡大しつつある。液晶は、弱まっている。電気機械は、緩やかに持ち直しつつある。普通鋼は、横ばいの状況にある。特殊鋼は、緩やかに持ち直しつつある。

- 令和8年熊本地震により、8月は計画を下回る生産実績となったが、過去の災害の教訓から調達先の分散や在庫の確保を進めてきたため、影響はそれほど大きくなかった。9月以降は高水準の生産を計画しており、今後も堅調に推移していくと見ている。（輸送機械）
- AI需要の拡大を背景として、半導体製造装置向けの受注が増加している。その他、航空機関連向けの需要も好調である。（生産用機械）
- データセンター向けをはじめ様々な分野から旺盛な需要が続いており、フル稼働が継続している。今後も需要は伸びていくと見込んでいる。（電子部品・デバイス）
- 国内外において半導体関連の需要が増加しているほか、昨今の産業機器全般の価格動向を踏まえ、今後の値上がりを懸念した先行発注が見られる。（電気機械）

■ 雇用情勢　「緩やかに改善する中、企業の人手不足感は続いている」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移している。完全失業率は、低水準である。法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI でみると、いずれの規模においても、また、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超となっている。

- 人材獲得競争の激化に加えて、導入負担の大きさから省力化も十分に進んでいないことから、人手不足の状態が続いている。（サービス）
- 現場作業員の担い手として高卒人材を採用したいが、高校卒業者の進学率の上昇等を背景に、採用が難しい状況が続いている。（輸送機械）
- 企業の即戦力志向の強まりや求職者の労働条件を重視する傾向を背景に、職歴や条件面でのミスマッチが生じている。（公的機関）
- 物価高を背景に、ダブルワークを目的として求職活動を行う者が増加している。（公的機関）

■ 設備投資　「8 年度は増加見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　製造業では、「生産用機械」や「窯業・土石」などが減少となるものの、「情報通信機器」や「輸送用機械」などが増加となることから、増加見込みとなっている。

○　非製造業では、「運輸、郵便」や「不動産」などが増加となることから、増加見込みとなっている。

➢　多様な需要に対応するため、生産設備に投資を行う。また、工場と事務部門のそれぞれで AI の導入など DX 化を推進していく。（輸送用機械）

➢　老朽化した物流施設の建替えを行うとともに、取扱貨物の増加に対応するため、新たな施設を建設している。（運輸）

■ 企業収益　「8 年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　製造業では、「輸送用機械」が減益となるものの、「情報通信機器」や「窯業・土石」などが増益となることから、増益見込みとなっている。

○　非製造業では、「サービス」や「不動産」などが増益となるものの、「運輸、郵便」や「情報通信」などが減益となることから、減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感　「『下降』超となっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　景況判断 BSI でみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き（8 年 10-12 月期）は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設　「弱い動きとなっている」

○　新設住宅着工戸数でみると、貸家、給与住宅は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っていることから、弱い動きとなっている。

■ 公共事業　「前年を下回っている」

○　前払金保証請負金額でみると、前年を下回っている。

■ 輸出　「前年を上回っている」

○　輸出額（円ベース）は、前年を上回っている。なお、輸入額（円ベース）は、前年を上回っている。

■ 企業倒産　「前年を下回っている」

○　企業倒産件数は、前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較	総括判断の要点
愛知県	回復しつつある	**回復しつつある**	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善している。
岐阜県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。
三重県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。